

松陵小学校地域懇談会ニュース

「第2号」

平成22年8月3日発行

今後の松陵小学校のあり方等について、2回目の懇談会が開催されました。その概要を松陵小及び松陵西小学区内にお住まいの皆様にお知らせします。

日時：平成22年6月27日（日）10：00～12：20

場所：松陵小学校 1階みどりの部屋

1. 地域委員数の変更について
2. 議事【テーマ：今学校で求められている教育内容】
 - (1) これからの子供たちに身に付けるべき力（確かな学力）
 - (2) 確かな学力をはぐくむために必要な教育環境



1. 地域委員数の変更について

第1回懇談会の開催後、地域委員の変更がありましたので、必要な規約の改正を行いました。

2. 今学校で求められている教育内容について

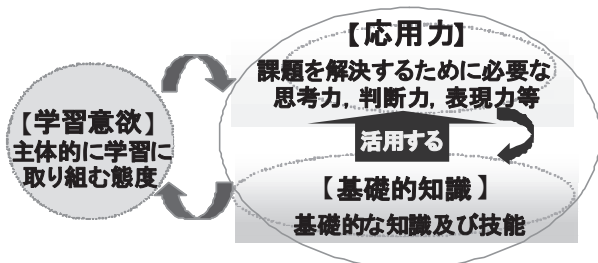
子供たちに身に付けさせたい力として「確かな学力」と、それを育むために必要な教育環境について、次のとおり教職経験のある職員から説明がありました。

① これからの子供たちに身に付けさせるべき力（確かな学力）

子供たちが将来、変化の激しい社会で自立して生きる上で必要な力として、「基礎的知識」とそれに基づき課題を解決するために必要な「応用力（思考力・判断力・表現力等）」、さらにそれらを支える「学習意欲」が挙げられます。この3つの力をまとめて「確かな学力」と呼んでいます（下図参照）。中でも、特に「必要な情報を選択、分析し、それをもとに論理的・批判的に思考・判断を行い、さらにそのプロセスと根拠を適切に表現し、それを通じて他者と協働して問題を解決」する「応用力」の育成が、今後さらに重要になると考えられます。

個性を尊重しつつ能力を伸ばし、個人として、そして社会の一員として生きる基盤を育てるために確かな学力をはぐくむことが重要になります。

今の子供たちに必要とされる力 〈確かな学力〉



「杜の都の学校教育」が目指すもの



② 確かな学力をはぐくむために必要な教育環境

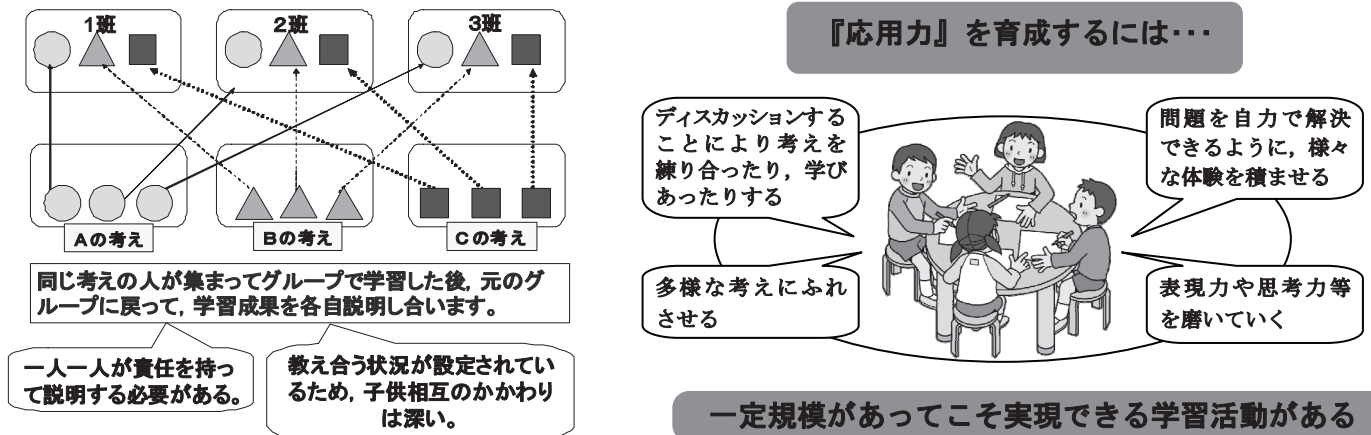
1 個に応じた指導の充実

一人ひとりの児童に確かな学力をはぐくむために、「個に応じた指導」を少人数学習やグループ別学習など形態を工夫して進めています。加えて、「応用力」をはぐくむためには、友達の多様な考えに触れ合ったり、様々な課題を追求したりする環境が必要になります。

2 個に応じた指導で応用力をはぐくむ

日々の授業においては、基礎・基本を習得するとともに、その知識を活用する学習や、体験的な学習、さらに問題解決的な学習が重要になってきます。加えて、発表や討論といったコミュニケーション力を育成することも大切です。これまで、学校では主に一斉指導で授業を進めることが多かったのですが、子供たち一人一人の願いや考えに対応しながら「応用力」を育成していくことを考えると、今後は様々な学習形態や指導方法を採用することが必要です。

小規模での少人数の効果というものはありますが、一定規模があつてこそ実現できる学習の展開もあります。特に応用力に結びつく問題解決型の学習を展開する場合は、一定のクラスの人数が確保できないと限界はあります。



【話し合いの主な内容】

地域委員：松陵小の児童は学力が付いていないと認識しているのか。

教育委員会：松陵小学校の先生方は一生懸命努力していますが、小規模校ゆえにできないことがあります。

地域委員：「個性を尊重しつつ能力を伸ばし、個人として社会の一員として生きる基盤を育てる」ことについて、小規模校では欠けていて、統合して2クラスにすれば身に付くものなのか。

教育委員会：身に付いていないから統合するのではなく、子供たちが持つ可能性をもっともっと広げたいと思って話をしています。

地域委員：社会的に生き抜く力が付いたかどうかの判断について、教育委員会は何を基準としているのか。

教育委員会：教育委員会としては、子供たちに学習意欲を身に付けさせるため、職場体験に取り組んでおり、子供たちの反応を見ると成果が上がっていると感じております。しかし、今のところ社会を生き抜く力が付いたかどうかを数字で表すのは難しいところです。

地域委員：学習意欲を付けることと学校規模との関係をどのように考えているのか。

教育委員会：切磋琢磨することや異なる考え方に触れることなど、子供の数や学習意欲に影響していると思っています。

地域委員：松陵小の子供たちの活動を見て、デメリットが大きいと感じているのか。

教育委員会：丁寧に教えてもらえるなどのメリットもありますが、入学して一緒に生活を送っていくうちに、少しずつ順番が決まってしまうなどのデメリットも大きいと思います。メリットに満足するのではなく、子供たちの可能性をもっと広げたいと思っています。

地域委員：もっと人数がいた方が自然というか、子供の頃の幅を広げた方がもっともっと必要な力が身に付くと思うし、子供のためにもなる。もっと大人数で小学校時代を過ごして欲しいと思っている。

地域委員：一定規模のクラスの必要最低限の人数は何名程度と考えているのか。

教育委員会：規模については学級数で考えており、クラス替えやある程度大きな授業が可能となることなどから、1学年最低でも2クラスが必要だと考えております。実際に教室で教えている状況からすれば、個別学習だけではなく、グループ学習とかを行っていく時の集団として、30名程度が必要と思いますが、1クラス何名が適正という言い方はしておりません。

地域委員：市の施策により同じ団地に小学校を2つ建てた訳だが、西小を建てる時点で児童数の推移は計れたと思う。当時の教育委員会として施策に間違いがあったと認めてもらえるのか。

教育委員会：平成15年度頃までは、1つの学校で31学級を超えるような状況が続く時は学校を分けてきました。平成16年度から始めた適正規模校の検討の中で、1学年2クラスという学校規模を維持するためには、学区内にどのくらいの世帯数が必要かという考え方が出てきました。西小をつくるときに、松陵団地として、世帯数に対して2つの学校が本当に必要なのかといった議論はありませんでしたので、31学級を超える状況が見込まれたため学校を分けたということであります。

地域委員：統合したら松陵小の子供に応用力がつき、飛躍的に活動していけるのか。

教育委員会：今は少人数で一人一人の子供たちを先生たちが面倒をみて、トラブルもなく、すくすく育っていると思いますが、なるべく大きな学校でいろいろな子供たちにもまれるという体験も必要です。そのような中で、子供たち自身が自力解決していきながら強さを身につけていく部分があると思います。

地域委員：松陵小では、算数は一人一人徹底的に教え込まれている。そういったメリットをなくしてまでも、統合して応用力を身に付けることは必要なのか。

教育委員会：基礎・基本の徹底を図るとともに、他の力もきちんと付けて、確かな学力を身に付けさせていかなければならないと考えています。



地域委員：これから入学する子供たちのためにも、大人数で楽しく過ごし、時にはもめたりしながら過ごせる日々が来るよう、一日も早くお互いに理解し合いながら前向きに進むことを望んでいる。

地域委員：○ PTAの意見について、懇談会では反対の人の意見・発言ばかりであるが、中には賛成とどちらでもいいと思っている方はいると思う。

- 教育委員会の説明に対し、ここが理解できないといったことを繰り返しても話は前に進まないと思う。また、自分たちの子供のことだけではなく、これから入る子供たちの環境も考えてほしい。
- 統合に対して不安があれば、どうやって松陵小と西小の子供たちを仲良くスムーズに環境に慣れさせていくかということを、前向きに考えていくべきではないかと思う。

地域委員：○ 在籍している保護者からすれば、新しい学校に移るというのはものすごく不安を持っていると思うので、PTA側に反対意見が強いのは当然のことだと思う。ただ、反対ばかりの集団が多ければ話は平行線だと思うので、賛成の意見を持っている方も含めた方が、話し合いがもっと深まって煮詰まるのではないかと考え、今年度の懇談会メンバーを選んでいる。

- この話の土台は、一人一人の子供たちだと思うので、今後は発展的・建設的な意見を積み重ねて、方向性を議論していければいいと思う。

地域委員：学校の統合に関して、どのような話し合いの経路をたどって統合にたどり着いたのかというモデルケースのようなものをぜひ知りたい。それを提示した上で話し合いを進めてほしい。統合に向けた具体的な動きについての資料を持ってきてもらうことと、過去のモデルケースのようなものを照らし合わせながら話し合いを進めてほしい。

地域委員：○ 全国的な少子化を踏まえると、学校統合の問題は必ず起こるし避けられないことである。現実的な問題として前向きに取り組む必要があると思う。

○ 松陵一・二丁目町内会は大方が西小学区に属しているが、一部が松陵小学区に属している。そのため、一部で矛盾や問題が生じている。やはり統合して1つになった方がすっきりいくのではないかなと思う。

地域委員：最近子供が少ないので本当に残念に思っている。団地内で2つの学校がこのままの状態であっていいのか、前向きにいろいろな意見を出し合って、子供たちが成長していくのに一番いい方向に進んでほしいと思う。

地域委員：財政面に関して、松陵小と西小をこのまま残していった場合と統合した場合とで予算が削減なのか増加なのか、わかり易く提示してほしい。

教育委員会：次回にお示ししたいと思います。

地域委員：私が反対している理由は、この学校に学習面などで非常にいいメリットを感じているからであり、統合することがメリットになるとは思わない。現在の松陵小の数字として把握できる学力の基準点が仙台市の中でどの程度の位置にあるのか、西小と比較する形でわかり易く提示してほしい。

教育委員会：教育委員会では各学校の学力向上の一環として標準学力検査を行っていますが、学校間の比較を行うためのものではありません。学力検査では、この問題であれば子供たちにはこのくらいの点数をとってほしいという「期待正答率」で子供たちの実態を把握しています。検査の結果については仙台市内の各学校が独自に保護者に示していますので、そうした資料は提供できると思いますので確認します。

地域委員：保護者は反対を掲げて懇談会に臨んでいるのではなく、大好きな松陵小を無くしてしまってもいいのかどうか議論をしたいのである。教育委員会としても一方的な話を押し付けるのではなく、議論ができるようにしてもらいたい。



【第3回松陵小学校地域懇談会の開催日程】

日 時：平成22年8月29日（日）午前10時から

場 所：松陵市民センター 第2・3研修室

テーマ：子供のより良い教育環境をめざして

※ 保護者、地域の方は地域懇談会を傍聴することができます（第2回地域懇談会では5名の方の傍聴がありました）。

なお、傍聴者は発言をご遠慮いただくことになりますので、ご意見のある方は書面等により承ります。

どのようなことでも結構ですので、ご意見がありましたらぜひお寄せください。

事務局：仙台市教育委員会事務局 学校規模適正化推進室

電話：214-8432 FAX：264-4428

Eメール：kyo019031@city.sendai.jp

取組み内容はホームページでもご覧いただけます

仙台市教育委員会 一定規模確保

検索